

ことば便り



～言語能力をはぐくむ～

松原北小学校 学習指導部

【5年生 校内研究授業】

国語科「大造じいさんとがん」で5年生の研究授業を行いました。



今年度の研究テーマを「共にことばの力を育み主体的に学ぶ子ども～めあてにせまるしかけづくりの授業～」と設定し、言語能力をはぐくむモデル校としての取り組みと関係づけて、主体的に学ぶ子どもを育成できるよう、校内で取り組みを進めています。その取り組みの実践例として5年生では、2クラスで授業を行いました。



それぞれの本時の中では、様々な「教材のしかけ」を用い、子どもたちが主体的に学びに向かうことができるような工夫が用意されていました。5年3組の授業では、いいなと思う情景描写を選び、理由を考えることで、中心人物の心情と情景描写が繋がっていることを捉えさせようと考えました。

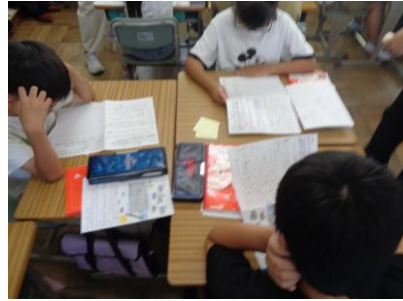
5年2組の授業では、中心人物が変容したきっかけを選び、本文から根拠を探すことで、物語を一文にまとめることができるように考えました。

また、今回は松原市教育委員会の方に講師として来ていただきました。ご講評では、「教材のしかけ」を用いることで、子どもたちがより主体的に授業に参加できていることや、都度本文に立ち返ることができていたところを評価していただきました。子どもの言葉で学びを深めていくべきことや、視点をもった交流が言語能力を育むこともご助言いただきました。

[R8.9.10 研究授業の様子]

【4年生 校内研究授業】

国語科「ごんぎつね」で4年生の研究授業を行いました。



「ごんぎつね」は、登場人物のごんを兵十がうってしまい物語が終わります。4年生では、その後の兵十がどんな行動をとっていったのかを想像し、物語の続きを書きました。書く際には、物語の内容を基にして、本文に沿った自分なりの物語にすることを意識しました。本時では、それぞれが書いた物語を「思いが伝わる工夫」と「兵十の気持ちが物語と結びついているか」の視点でグループ交流をしました。子どもたちからは、適切に登場人物の心情を捉えていたことや、登場人物の気持ちに沿った情景描写が描かれていたことが交流で話し合われていました。



今回は、大阪府教育センターの方に講師として来ていただきました。ご講評では、「指導と評価の一体化」についてお話いただきました。ゴールにおける子どもたちの姿をイメージするところから授業の計画を立てていくことで、単元で一貫した指導を行っていただけることをご助言いただきました。

また4年生の授業からも、改めて「相手意識・目的意識・必要感」を子どもたちにもたせることが大切であるということを学ばせていただきました。それが本校の研究テーマでもある、「主体的に学ぶ子ども」を育てていくことにつながります。

研究授業で得たものを、明日からの授業に活かしていきましょう。